



宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校学校だより 第3号 (H22.4.28)

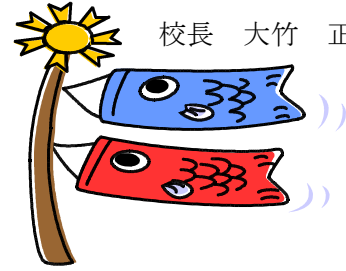
宮崎県都城市妻ヶ丘町27-15

TEL: 0986-23-0223 FAX: 0986-24-5884

校長 大竹 正純

質実剛健

「実力と気品をそなえ、たくましくあれ！」



あいさつ日本一を目指して — いつでも どこでも さわやかに —

新緑の美しい季節になりました。保護者の皆さまにおかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。新入生、まだ緊張感が残っていますが、宿泊体験学習を終え、徐々に学校生活に慣れ、ニコニコとした表情での登下校、初めての中学校での授業など、目を輝かして取り組んでいます。



さて、開校式・入学式を終えて子どもたちの様子を見ると、廊下ですれ違う生徒達のさわやかな「おはようございます」というあいさつには、驚きとうれしさを感じました。さすが附属中生だなと実感しました。本校は、いつでも、どこでも、さわやかにできる「あいさつ日本一」の学校を目指していきたいと考えています。

あいさつの大切さは誰しも認める場所ですが、私たちは誰にでもきちんとあいさつができるかとなると、まだまだ反省する場所があるのではないのでしょうか。「おはようございます」と互いにあいさつを交わす事は、すがすがしい一日のスタートをきることができます。あいさつは人と人との心のかよいあいです。人間は一人では生きていくことはできません。必ず他人とのかかわり合いの中で自分を生かしていくこととなります。そのためには、お互いにあいさつをすることが大切なんだと思います。あいさつはお互いの暖かい気持ちを通じさせるものなのです。

あいさつは、生徒たちが社会の中で自立するために、人間としての基礎・基本となるものです。「おはようございます」「こんにちは」「ありがとうございます」と言われたときの気分は最高です。学校生活のリズムはあいさつから始まるといってもよいでしょう。登下校の際、多くの生徒（高校生も含み）はよくあいさつができていますが、コクリと頭を下げて終わってしまう人や恥ずかしげに通り過ぎてしまう生徒もいます。家庭ではいかがでしょうか。「おはよう」「いってきます」「いってらっしゃい」の明るく元気なあいさつができていますか？ちょっとだけ勇気を出して元気よく「おはようございます」といってみましょう。清々しい気持ちになります。

「おはよう」「こんにちは」以外にも、あいさつはたくさんあります。「お話中失礼します」「〇〇で遅れました。すみません」「〇〇でご迷惑をかけてすみません」「〇〇へ行ってきます。〇〇時に帰ってきます」など必要な連絡や報告もあいさつです。あいさつのできる人は、心にゆとりのある、心豊かな人なのです。

学校には、たくさんのお客さんが来ます。お客さんと廊下や階段等で会ったら、積極的にあいさつしましょう。心豊かな附属中のみなさん、ちょっとした頑張り、いつでも、どこでも、誰にでもさわやかなあいさつが飛び交う附属中の伝統、校風を築いていきましょう。さらに、みなさんの「元気で、さわやかなあいさつ」が家庭、さらには地域の人たちに広がることを期待しています。

PTA総会 PTA役員会 開催される！

H22.4.24(土)

4月24日(土)、今年度初めての参観日が行われ、641名(附属中:38名)の保護者の皆さまに参加していただきました。土曜日の開催ということもあり、保護者の参観率は高く、72.9%(附属中:95%)でした。また、参観授業の後に行われましたPTA総会並びに学級懇談会にはほとんどの保護者の皆さまに参

加をいただきました。附属中の教育活動に対する保護者の皆さまの積極的なご協力と援助の意識が高いということを感じるところであります。

また、我々、全教職員は責任の重さをあらためて感じ、身の引き締まる思いを感じております。

P T A総会では今年度の新役員が選出されるとともに予算案が承認され、いよいよP T A活動が本格化します。なお、新役員は以下の通りです。1年間よろしく願いいたします。



授業参観：数学の授業（正の数・負の数の足し算（加法）の仕方について考える

P T A会長	中 村 徳 之	P T A副会長	磯上 照男（高校：教頭）
P T A副会長	月 野 健一郎	P T A副会長	玉利 勇二（中学：教頭）
P T A副会長	宮 脇 克 広	P T A監査委員	丸 田 勉
P T A副会長	外 園 敏 文	P T A監査委員	中 村 光 彦
P T A副会長	本 村 英 宏	P T A監査委員	田 中 高 一
P T A副会長	財 部 美智子	P T A監査委員	木 脇 桂太郎
P T A 副 会 長 ・ 附 属 中 学 校 P T A 会 長			吉 永 文 子

特 集

お子様への関わり方のヒント③ 「質問」

「質問」は、質問する側と受ける側があります。質問する側は「わからないこと」、「不思議だと思うこと」があり、質問することになりますが、保護者の方が、その答えをもっているか、応えにたどりつく手立てがあることが大切です。

また、質問を受けるお子様が答えを考える質問をすることが重要です。このことにより、お子様は、物事の本質を考えようとする手がかりとなります。「質問」は、お子様が物事を考えようとする良い手段になります。

<質問のポイント>

- 1 何が、重要な事柄なのかを、気付かせる問いかけをしましょう。
- 2 はっきりしていない事柄に、気付かせる問いかけをしましょう。
- 3 「何故そうなるのか?」「どういう根拠からそうなるのか?」その理由を考えさせる問いかけをしましょう。

